

リトアニアへの 旅の追憶

ジョナス・メカス監督

REMINISCENCES OF A JOURNEY TO LITHUANIA

BY
JONAS
MEKAS
1972

私たちの仕事、つまり現状において一番重要な仕事は、
自分自身だ。私たちこそが全てに対する基準なのだ。
そして私たちの生み出すものや芸術の美しさは、
われわれ自身の美しさ、魂の美しさに比例する。

—— ジョナス・メカス

故郷を追われアメリカに亡命した詩人は1台の16ミリ・カメラを手に入れた。日々の生活を日記のように撮り始めた彼は27年後、故郷リトアニアを訪れ、母との感動的な再会を果たす。アメリカンディペンデント映画を代表するみずみずしい映像叙事詩。

1972年作品 / 1950~1972年撮影 /
モノクロ&カラー / 87分 /
35mmブローアップ版(オリジナル16mm)
日本語字幕:中沢新一+西村美須寿
配給=ダゲレオ出版



リトアニアへの旅の追憶

ジョナス・メカス監督

1949年、故郷からナチスに追われアメリカに亡命したジョナス・メカス。言葉も通じないブルックリンで一台の16ミリカメラを手にしたメカスは日々の生活を日記のように撮り始めます。27年ぶりに訪れた故郷リトアニアでの母、友人たちとの再会、そして風景。メカスは自在なカメラワークとたおやかな感受性でそれらの全てをみずみずしい映像と言葉で一つの作品にまとめ上げました。この感動的な映像叙事詩はメカス自身の代表作であるばかりでなく、アメリカインディペンデント映画の不朽の名作として広く愛され続けています。35ミリブローアップ・プリントにて特別上映!



メカス自身による解説

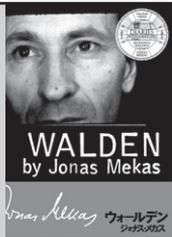
この映画は3つの部分から構成されている。まず第一の部分は、私がアメリカにやって来てからの数年、1950～53年の間に、私の最初のボレックスによって撮られたフィルム群から成っている。そこでは、私の弟アドルフアスや、そのころ私達がどんな様子であったかを見ることができる。ブルックリンの様々な移民の混ざりあいや、ピクニック、ダンス、歌、ウィリアムズバーグのストリートなどを。第二の部分は、1971年に、リトアニアで撮られた。ほとんどのフィルム群は、私が生まれた町であるセミニシュケイを映しだしている。そこでは、古い家や、1887年生まれ私の母や、私たちの訪問を祝う私の兄弟たるや、なじみの場所、畑仕事や、他のさして重要ではないこまごまとしたことや、思い出などを、見ることになる。ここでは、リトアニアの現状

などというものは見ることはできない。つまり、27年の空白の後、自分の国に戻って来た「亡命した人間」の思い出が見られるだけなのである。第三の部分はハンブルクの郊外、エルンストホルンへの訪問から始まる。私たちは、戦争の間1年間、その強制労働収容所で過ごしたのだった。その挿入部分の後、われわれは私たちの最良の友人たちの一部、ペーター・クーベルカ、ヘルマン・ニッチ、アネット・マイケルソン、ケン・ジェイコブスと共に、ウィーンにいた。そこでは、クレムスマンスタターの修道院やスタンドルフのニッチの城や、ヴァイトゲンシュタインの家などを見ることができる。そしてこのフィルムは、1971年8月のウィーンの野菜市場の火事で終わることになる。

——ジョナス・メカス

ジョナス・メカス略歴

- 1922年 12月24日リトアニアのセミニシュケイの農家の5人兄弟の4番目として生まれる。
- 1940年 高等学校(ギムナジウム)の編入に合格。この年、ソ連軍(赤軍)によるリトアニア占領。ソ連はリトアニアを自国の一共和国と宣言。
- 1942年 ナチスドイツによるリトアニア占領。
- 1944年 弟アドルフアスと反ナチスの地下新聞を発行。やがてそれが発覚しそうになり弟アドルフアスとウィーン行き列車に乗りこむが、列車はハンブルク近郊のエルムスホルンの強制収容所に着く。
- 1945年 3月、収容所を脱走、デンマーク経由でスウェーデンを目指す。デンマーク国境で憲兵に捕まる。以後難民キャンプを転々とする。終戦を知ったのは、終戦の一週間後だったという。
- 1949年 10月、ハンブルク港から出航、ニューヨーク・ブルックリンに移住。
- 1950年 アイロンかけ、鉛管工事、機械工事、船舶部品清掃と職を転々と変える。この年、ボレックス(16ミリ映画カメラ)を購入。当時住んでいたウィリアムズバーグとリトアニア系移民を撮り始める。
- 1954年 『フィルム・カルチャー』誌を発行。
- 1958年 『ヴイレック・ヴォイス』誌に「ムービー・ジャーナル(映画日記)」を連載(76年まで継続)。
- 1960年 「ニュー・アメリカン・シネマ・グループ」を結成。メカスがマニフェストを書く。
- 1961年 『フィルムメーカーズ・コーポラティブ(映画作家協同誌組合)』を組織。
- 1962年 プリーカー・ストリート・シネマで独立映画、アンダーグラウンド映画の上映を組織。
- 1968年 『ウォールデン(日記、ノート、スケッチ)』の第1バージョンを公開。
- 1971年 夏、リトアニアに一時帰国。
- 1972年 『リトアニアへの旅の追憶』(87分)『ヴイレック・ヴォイス』誌に連載していたコラム「ムービー・ジャーナル」をまとめた『映画日記』を刊行。
- 1989年 実験映画専門映画館アンソロジー・フィルム・アーカイブス開館。
- 2011年 『メカス×ゲルン 往復書簡』(99分)
- 2012年 パリ・ボンビドー・センター、ロンドン・英国映画協会にて個展開催



DVD発売中

ジョナス・メカス監督
『ウォールデン』
DVD2枚組+解説ブック付き

発売元:ダゲレオ出版
品番:DAD14046
価格:7200円(本体価格)

12/13(土) → 26(金)

(12/18(木)、12/25(木)は休映)

連日11:30よりモーニングショー

当日一般:1200円 / 学生・シニア1100円 / 会員1000円

【シアター】
イメージフォーラム



tel.03-5766-0114 www.imageforum.co.jp

定員入替制 / 整理券制

渋谷駅より8分益坂上り次の信号スターバックス右手入る